TPCnews170 号
2025・7・25

仙台市青葉区中央二丁目九番十号　　http://www.t-productivity-ce.jp　HP 掲載中

NEWS絆　東北生産性本部

「AI×DXがもたらすビジネス変化と人材育成の必要性
～これからの人的資本経営とは～」

2025年度 仙台シンポジウム 7月例会開催

2025年度 仙台シンポジウム7月例会は、国立情報学研究所　情報社会相関研究系　 教授
新井　紀子　氏　を講師にお迎えし、約50名の参加を得て開催いたしました

■例会（２０２５年７月４日開催）

講師：

国立情報学研究所　社会共有知研究センター　センター長・教授

一般社団法人　教育のための科学研究所　代表理事・所長　　新　井　紀　子　氏

(プロフィールなど)

東京都出身。一橋大学法学部およびイリノイ大学数学科卒業、イリノイ大学 5 年一貫制大学院を経て、東京工業大学(現:東京科学大学)より博士(理学)を取得。専門は数理論理学等だが、人工知能や教育等、文理融合分野で幅広く活動をしている。具体的な研究成果としては、教育機関向けのコンテンツマネージメントシステムや、研究者情報システムの研究開発、リーディングスキルテストやedumapの発案・研究開発等がある。

2011 年から 10 年間、人工知能プロジェクト「ロボットは東大に入れるか」プロジェクトディレクタを務めた。2016 年より読解力を診断する「リーディングスキルテスト」の研究開発を主導。

科学技術分野の文部科学大臣表彰(2010 年・2022 年)、日本エッセイストクラブ賞、石橋湛山賞、山本七平賞、大川出版賞、エイボン女性教育賞、ビジネス書大賞などを受賞。

主著に「数学は言葉」(東京図書)、「AI vs 教科書が読めない子どもたち」、「AI に負けない子どもを育てる」、「シン読解力」(東洋経済新報社)など。

【ご講演要旨】

「AI×DXがもたらすビジネス変化と人材育成の必要性～これからの人的資本経営とは～」

生成aiや ChatGPT の特性について、自身の経験を基に、信頼性や評価についてご紹介をいただきました。

生成aiについて、「そこそこのことは出来る」が、「そこそこのことまでしか出来ない」、「曖昧さをいい感じにまとめることが出来る」が、日経新聞もニューヨークタイムスも読むことは出来ないので、内容の信ぴょう性は確認が必要。

例えるなら DX は「かっちり」しているのに対し、AIは「ふわっと」したものであり、利益率や工程管理、計算は DX で行うべきである。

DX が使えない部分は生成aiを使うが、職種としては広報、企画、HR など、何が成功で、何が正しいのかがはっきりしていない評価指標が曖昧な準クリエイティブ分野で活躍する。

生成 ai×人で生産性を上げる前提として、生成aiの出力結果を日本語としてきちんと読み解くことが出来ることが必要。生成 ai の結果をコピペして使いまわすような新入社員なら取らない方が良い、結果については、400字に一回くらい嘘や誤りがある。

生成 ai を使いこなせる人とは、「シン読解力」がある人であり、「シン読解力」がない人は、生成 ai を使いこなす土俵には立てない。 生成 ai の結果を吟味し、ファクトチェックが出来れば、生産性が何倍も上がる。

「シン読解力」を量るため、リーディングスキルテストを開発し、そのテストの一例を交えながら、一部企業では採用試験にも取り入れていることなどにも触れてご講演いただきました。

以上、大変有意義なご講演ありがとうございました。